



# 素謡会

## 素謡 卷絹

林本 大

絹の奉納が遅れ捕まった男は、実は音無天神で和歌を詠んでいた……。和歌の徳により神々が巫女に乗り移り救いにやってくる。

# 12月 たにまぢ能

12月3日(日) 午後2時開演

## 素謡 砧

山本 章弘

夫の長い留守をじっと待つ女。澄んだ月、荒涼とした秋の夜長に、ついに女は力尽きる。世阿弥の名作。

## 素謡 藤戸

森本 哲郎

口封じの為氷のような刃に貫かれ、波の底に沈められた男の亡霊。無力で悲痛な声が響く。

仕舞

籠太鼓

松浦 信一郎

仕舞

猩々

山本 順之

国登録有形文化財山本能楽堂 公式ホームページをご覧ください

<http://noh-theater.com>



地下鉄谷町四丁目④番出口より、北に一筋目の角を左へ100m、南側(徒歩5分)

主催/公益財団法人 山本能楽堂

入場券 ●一般券 5,500円 ●学生券 3,000円 綴り割引券(3回分) ●一般券 15,000円

お問い合わせ 山本能楽堂/Tel. 06-6943-9454 FAX. 06-6942-5744 e-mail ticket@noh-theater.com

# 素謡会

14時始

## 素謡 <sup>まきぎぬ</sup> 卷絹

シテ(巫女)	林本 大
ツレ(都の男)	山下あさの
ワキ(臣下)	前田 和子



林本 大

### ●あらすじ

卷絹とは、巻いた絹の反物のこと。とりわけ質のよいものが献上品とされました。時の帝が霊夢をご覧になり、熊野三社に卷絹を奉納せよとの勅令をお出しになります。その命を受けた勅使は、熊野で全国から奉納される卷絹を受け取りますが、都からの使者がなかなか来ずに、業を煮やしていました。そうとは知らず都の使者は、途中で音無天神にお参りし、折から咲く梅の香りに心を惹かれ、和歌を一首収めていたのです。使者は、ようやく本宮に着いたのですが、納品が遅れたことを責められ、勅使に縛り上げられてしまいます。そこへ音無天神の霊が乗り移った巫女が現れ、使者が手向けた和歌によって苦しみを和らげられたと告げ、勅使にその戒めを解くように命じます。勅使は使者のような賤しい者が歌を詠めるはずもないと疑うのですが、使者に詠ませた上の句に、巫女が下の句をつけてその確かさを証したので、使者は縄を解かれ自由の身になりました。

巫女は和歌の徳を褒め称えながら舞い、さらに勅使の願いに応じて祝詞をあげ、神楽を舞います。そのうちに激しい神がかりとなっていきます。御幣も乱れ、飛び上がり、地に臥せるなど激しく狂い舞った後、やがて憑いていた神が上がりせられたと見え、巫女は正気に立ち戻るのでした。

## 仕舞 <sup>ろうだいこ</sup> 籠太鼓 松浦 信一郎

## <sup>しょうじょう</sup> 猩々 山本 順之

## 素謡 <sup>きぬた</sup> 砧

前シテ(北方)	山本 章弘
後シテ(北方の霊)	今村 一夫
ツレ(夕霧)	波多野 晋
ワキ(芦屋某)	



山本 章弘

### ●あらすじ

訴訟のため都へ上っていた芦屋の某は、三年目の秋、年末には必ず帰郷するという伝言を侍女の夕霧に託します。故郷へ下った夕霧は某の奥方のもとへ向かいますが、奥方は寂しい日々を嘆くばかりでした。やがて、遠くで里人の打つ砧の音を聞いた奥方は、「夫を思う妻の打った砧の音が、遙か遠く離れた夫のもとへ届いた」という中国の蘇武の故事を思い出し、慰みに自らも砧を打ち、感傷にひたります。しかし、再度の使者が来て、某は年末にも帰らないと告げられ、奥方は絶望し亡くなってしまいます。

妻の訃報を聞いた某が急いで帰郷し、吊っていると、奥方の亡霊が現れて夫の不実を責めますが、やがて法華経の功德によって奥方は成仏するのでした。

休憩 10分

## 素謡 <sup>ふじと</sup> 藤戸

前シテ(母)	森本 哲郎
後シテ(漁師の霊)	山本 博通
ワキ(佐々木盛綱)	山本 麗晃
ワキツレ(従者)	



森本 哲郎

### ●あらすじ

源平の合戦に勝利した源氏方の武将、佐々木盛綱は、備前国児島にある藤戸の合戦で、馬で海を渡る快挙を成し遂げ、先陣の功を挙げました。それにより、児島を領地に賜りました。春の吉日に、盛綱は初めて領地入りしました。すると一人の老婆が現れ、我が子を殺したと名指して、盛綱を咎めます。初めは、知らぬ存ぜぬを通して盛綱も、再三の老婆の追及とその哀れな様子に心を動かされ、とうとう告白します。源氏が戦陣を構えた藤戸は、平家の陣地と海で隔てられ、戦況は膠着していました。盛綱は地元に住む若い漁師から、馬で渡れる浅瀬ができる場所と日時を聞き出します。このことを、平家方はもちろん、味方にも知られたくなかった盛綱は、他言を恐れて漁師を殺し、海に沈めてしまったのです。この話を聞いた老婆は、半狂乱となり、自分も殺せと転げまわり、我が子を返せと盛綱に迫ります。盛綱は老婆をなだめ、漁師を回向することを約束し、家に帰らせました。

盛綱が、藤戸の海辺で管弦講(かげんこう)を催し、般若経を読誦して漁師を吊っていると、漁師の亡霊が海上に姿を現します。亡霊は、無惨にも殺された恨みを語り伝えに来たといい、刺し通されて海に沈められた惨劇を見せるのでした。亡霊は、悪龍の水神と化して、恨みを晴らそうとしていたのですが、意外にも回向を賜ったことに感謝し、彼岸に至って成仏の身となりました。

(終了予定 16時半頃)

**山本能楽堂+team OKINAが開発した無料アプリ**  
能について楽しく学べる能楽アプリ能のアニメやゲームもあります。気軽にダウンロードしてください。

能について楽しく学べるアプリ!

▲ ios ▲ Android

※許可なく撮影、録音は著作権、肖像権などに抵触いたしますので、ご遠慮下さいませようお願い申し上げます。

## 次回の たにまち能

平成30年1月6日(土)13時開演

●能 老松 山本 章弘 ●能 胡蝶 物着 前田 和子  
他 狂言など